

大学の国際化



若 者

西 村 隆 宏*

Internationalization of university

Key Words : Internationalization, CAREN, University rankings

今回執筆する機会を頂いてから、何を書いたらよいか非常に悩みました。勉強足らずで世間知らずな部分もあるかもしれませんが、これまで1年半程度、大学の国際化に微力ながら関わってきて個人的に思うことを、書かせていただきます。

私は、CAREN*¹の特任助教です。CARENは、大阪大学の存在感を国際的に高めることを目的に設立され、様々な国際化の取り組みを統合し橋渡しすることを目指して活動しています。私は主に、情報科学研究科の英語特別コース*²の宣伝や入学希望者の問い合わせの対応、海外大学との交流や協定締結に向けた活動などを行っています。ポストク時代とは違い、自分の研究に関係することだけを存分にという訳にはいきません。研究科ひいては大阪大学の国際的な存在感の向上に関わるような、このご時世、極めて重要とされるプロジェクトに、微力ながら関わらせていただいています。留学生をリクルートする経験をして、当たり前のことですが、学問や研究をする環境は、個人個人が自由に選択できるということを強く思い知らされました。

いろいろな意見もありますが、大阪大学は、2015年時点では、日本で3番目の大学と位置付けられているようです*³。うちの両親は、自分の息子が大学に合格すると思っていたらしく、私が十数年前に大阪大学に大学合格した時は、大変に驚

き喜んでくれました。留学生の場合は（留学生に限らないかもしれませんが）、事情が変わってくるようです。外国の国内3番手の大学の名前などは一般によく知られていないのです。なぜそのような日本の大学へわざわざ行くのか、欧米の大学もあるではないかと言われ、大阪大学への留学を親に説得することが困難だったという学生もいると聞きました。大学のランキングなんて…、とお考えの方が多くもおもいます。ランキングのつけ方に疑問をお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、学生が留学先を選ぶ際に、大学ランキングが重要視されているようです。

東南アジアの各国のトップレベルとされる大学をいくつか訪問する機会があり、学部学生への宣伝や関係学部の先生方と打ち合わせをしてきました。阪大卒業後に、自国に戻られご活躍されている先生が多数いらっしゃいます。学長などの要職に就いている方もおられ、大変感激いたしました。母校である阪大を愛しておられ、指導学生やご子息を大阪大学へ送り出すなど、脈々と大阪大学の国際交流を推進していらっしゃいます。

訪れて驚いたのは、世界的に留学生獲得競争が起きていることです。東南アジアの国々は、若者の人口が急激に増加しており、優秀な学生が豊富であると注目を集めています。また、大学の国際化は、日本だけの課題ではなく、非英語圏の国の大学における共通の課題です。各国が戦略的に、リクルート活動や魅力的な奨学金制度などを用意して、留学生の獲得合戦を行っています。訪れた大学には、既に世界各国の有名校との協定を複数提携しているところもありました。アジアの大学は、外国の有名大学と戦略的に協定締結することにより、その大学の存在感を高められる、また、相手大学としては、優秀な留学生を獲得できるといった、双方に利益のある関



* Takahiro NISHIMURA

1986年2月生
大阪大学 大学院情報科学研究科 情報
数理学専攻 (2013年)
現在、大阪大学大学院情報科学研究科
特任助教 情報学 フォトニックDNAコ
ンピューティング
TEL : 06-6879-4398
E-mail : t-nishimura@ist.osaka-u.ac.jp

係が築かれていました。しかし、その状況が過ぎると、優秀な学生は自国で教育するため留学させない、といった流れも最近ではでてきているようで、各国の事情を窺い知ることができます。

奨学金についての打ち合わせ中に、大学ランキングの話が出て驚きました。その国では、ランキング上位50以内の大学に留学する学生に、政府からの奨学金を優先的に配分していたそうです。大阪大学はそこから漏れていました…。お金と時間をかける以上、学生にとって最高の環境で学問・研究をするべきだと思います。その選択する際の指標として、大学ランキングが使用されているのです。大学名のもっとほかに、あの先生に師事したい、優秀な指導者のもとで学びたい、とかあってもいいように思います。しかし、もともと、大学ランキングなるものは、上海交通大学が世界レベルの大学とはどのようなものかを調査するために作成したのが始まりらしく*4、ランキングの使われ方としてはある意味正しいのかもしれない。

そうともなると、大学ランキングは、大学の国際化において、無視できない状況になっていると考えられます。大阪大学だから、国内トップクラスの環境で勉強・研究できる、というこれまで国内で築かれていた権威的な価値は、外国の方にはなかなか通用しません。2015年に発表された幾つかの大学ランキングでは、日本の大学が軒並み順位を落としたと話題になりました。少子化により日本人学生数が減少していくことは明らかであり、日本の大学が生き残っていくためには、外国から優秀な留学生を確保することが、必須だと考えられます。大学ランキングに変わるわかりやすい指標を海外留学生に提示できないとなると、海外の学生に対して魅力的な大学であるとアピールするために、ランキングの向上は非常に重要と考えられます。

海外には、大学として戦略的にランキング向上に取り組んでいる大学もあるといます。論文数を増やし、共同研究を増やし、引用数を増やし、留学生を増やし、外国人教員を増やすことが求められるようです。留学生数を増やしてランキングを向上させ、

ランキングを向上させて入学希望者を増加させる。卵が先か鶏が先か難しい課題ですが、良い循環を作らなければなりません。言語や奨学金などの条件面で、欧米の有名大学に圧倒的に負けているという現実があることも知りました。では、どうすればよいか。個人としては、良い研究をして研究ネットワークを広げていく、ということしか考えがいたっていません。このような執筆の機会をいただいたにもかかわらず、具体的な解決策を論じられず申し訳なく思います。

今回の執筆する機会をいただき、これまでCARENプロジェクトに携わってきて経験したことについての雑感を書かせていただきました。私が入学した時分と比較すると、キャンパスに留学生が増えているように思います。実際に、阪大の留学生数は徐々に増加しているそうです。留学生の受け入れや国際連携は、それぞれの先生方の取り組みに大きく依存していると考えられます。海外大学の先生と共同で研究を進めるなど、学術交流や学生の派遣などを熱心にされている先生方は多数おられると思います。ボランティア的な仕事も一部ではあるのだと思います。そうした先生方の負担を軽減するだけでなく、こうした連携を深化・拡大させることが重要なのだと考えています。国際的な留学生獲得競争に負けないよう、知恵を絞り、貢献できるよう微力ながら努めていきたいと思っています。

- *1 アジア人材育成のための領域横断国際研究教育拠点形成事業, Center for the Advancement of Research and Education Exchange Networks in Asia の略 (<http://caren.eng.osaka-u.ac.jp/>).
- *2 Information Technology Special Course in English. 情報科学研究科にて英語で講義の受講, 研究ができるコース (<http://www.ist.osaka-u.ac.jp/english/admission/itsce.html>).
- *3 日本経済新聞平成26年12月28日付朝刊6面(全国版).
- *4 高部英明, 大学ランキングをめぐる世界狂騒曲〈上〉, WEBRONZA, 2015年10月29日.